

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会				
事務局 (担当課)		博物館 電話042 - 750 - 8030 (直通)				
開催日時		令和5年11月9日(木) 午前10時00分~正午				
開催場所		博物館 1階 小会議室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	6人(佐々木館長、外5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		(1) 相模原市立博物館活動評価書について (2) その他				

議 事 の 要 旨

(1) 相模原市立博物館活動評価書について

相模原市立博物館活動評価書について、事務局より説明を行った。

(事務局) 評価の表記について、事前に頂いた皆様の評価を正確に表すという意味では、数字のままの方が分かりやすいのではないかと思うのだが、アルファベット表記をなくして、数字のみの表記とすることでいかがか。

(中里委員) 比べたりするのは数字の方がいいと思うが、対外的に見せるときにAとついていた方が分かりやすい。誰に見せるかによると思う。公表するとか一般の方に見せるときはAやBの方がいいと思う。

(浜田委員) 大学の成績評価もS A B Cでつけているが、今はG P A制度というものがあり、数字でトータルの成績が出されている。そのようなことを考えると、大学のような評価の表記でもいいと思う。外に出さないのであれば、数字だけでいいと思う。

(岩野委員) 決めてくださいと言っても多分、私は三つに一つだと思っていて、まず、アルファベット表記か数字表記かあるいは両表記だということであるが、事務局としてはこれがいいというようなものはあるか。

(事務局) 事務局としては、事務量的には数字の方がやりやすい。だが、分かりやすいということであれば、アルファベットを書くような形もできる。

(岩野委員) 数字か両記、併記するかということだと思うが、事務局で数字だけでいいということであれば、私達はそれを認めたいと思う。数字だけということではいかがか。

(委員より) 異議なしの声あり

(事務局) 全体的なところでもう一点ご意見を伺いたいのだが、有識者意見について、皆さまから頂いた意見をそのまま書いているため、である調とですます調が混在している。それについては変更を考えたが、変えることによりニュアンスが変わってしまうため、表現については、混在ということではよろしいか。

(岩野委員) まだ案ということ、たたき台として、皆様にご意見を伺っているという中で、言葉の表記をどうするかということであるが、私は両方混在していた方がむしろよいと思う。それぞれの有識者意見というタイトルの中で、様々な意見があって、書き方、言い方があると思う。これを無理に変えてしまうと、委員の方からクレームが来てしまうかもしれない。無理に直す必要はないと思う。

(山本委員) 例えば、である調を上にして、ですます調を下にするだけで、読み

やすくなると思う。文書自体を直さないのであれば、どちらかを前後に分けることにより読みやすくなると思う。

(事務局)今は頂いた順にそのまま記載しているだけであるため、混在ということに決まったら、そのやり方にしたいと思う。

(浜田委員)有識者意見のほかにアンケートの市民の意見についても、である調とですます調が混在しているが、これについても同じような処理で、無理に変えない方がいいと思う。

(岩野委員)ほかに意見がなければ、今出た意見を参考に今後進めていただければと思う。

(事務局)である調とですます調は変えず、それぞれ前後に分けてまとめるということで進めさせていただく。

< 定量評価について >

(岩野委員)9ページの活動評価について、下にグラフをつけていただいたことによって、非常に見やすくなったと感じた。以前に比べて改善されたところであり評価している。数字だけでなく目で見てすぐに分かる、図で表すという方法を今後も考えていただけるとありがたい。

(浜田委員)全般的にV字回復はよく分かるが、4番の講座・講演会参加者数と8番の市民の会の延べ参加者数が入館者数に比べると回復してないと感じた。これは高齢者の方が多く、コロナを心配されて来館されないのか、その辺の状況が分かれば教えていただきたい。

(事務局)推測となるが、講座・講演者数の人数は、回数はかなり元に戻したが、定員を絞って開催しているのが原因と思われる。市民の会は、コロナで活動しなかったという断絶期間があったことにより参加しにくくなったり、年齢的な要因などが考えられる。また、統計上の問題もあり、令和4年度に関しては、今まで教育普及事業と考えるには微妙な、PR的な事業なども令和3年度以前は含めていたが、令和4年度からは純粹に教育普及と考えられるものに限って数字を出すようにした。よって、見かけ上減ってしまっているということでご理解いただきたい。

(浜田委員)統計の取り方が変わったということでは理解した。

(大貫委員)PR事業はなぜ削ったのか。教育事業と教育事業でないものをどうやって分けたのか。

(事務局)各分野において、例えば、地質なら地質に関係するような、そこで学ぶことができるようなものは教育普及事業とし、単に博物館へ来館者を呼び込むような、グッズを配ったりするだけのものなどを統計の中から除いた。

(大貫委員) 博物館が地域の象徴的なものをグッズ化してそれを配ることによ
り、それをきっかけとして地域を知ってもらい、きっかけとなるよう
に、という意図でグッズを配るとしたら、教育事業である。もともと
が教育事業として入れるべきでないものを入れていたのか。

(事務局) ちょっとこれはどうかなと思うようなものを精査した。

(大貫委員) やっぱりこの講座・講演者数は、停滞からむしろ減っていることに
ついては考えないといけないと思う。

(事務局) 定員を絞っての開催であったため、回数は同じであっても参加する
人数は減ってくる。令和元年度以前は、シリーズ物の講座等が多かっ
たがコロナ明けはそういうものは少ないため、そういったところが影
響している。令和3年度にかなり数字が上がっているのは、はやぶさ
2が小惑星リュウグウから持ち帰ったサンプルを展示したことで突
発的に多くなっている。

< 定性評価について >

(岩野委員) 1について、博物館の活動で4つに分かれているのはいいと思う。

2の展示それから3の市民との協働などと比べると前向きな意見が多
いと思った。1についてはスタッフの方たちが一生懸命取り組んだこ
とへの意見がいい方向に出ていると総論的に感じた。それから個人の
意見としては、12ページの3行目の予算のところ。調査研究経費が
1人あたりにすると10万円を切っているのはどうかと思う。増やす
ように要望してほしい。各学芸員が調査研究するには予算が必要であ
る。自分も大学でやってきたことを考えると桁が違う。よくやってい
るなと思う。学芸員の方たちがやりやすいように少しでも予算を獲得
できるように、お願いしたいと思う。このような内容も強調して書き
入れた方がいいと思う。

(五十里委員) 当校でも学芸員の方たちに大変お世話になっており、子どもたちが
いつもアドバイスいただいている。それらは研究をなさっているから
こそだと思っているので、このような金額を見て驚いた。ましてはこ
ういう場所は調査研究の中心となる施設だと思うので、どうにかなら
ないものなのかなと思う。

(藤本委員) 国立科学博物館が行ったクラウドファンディングが話題になってい
るがどう思うか。

(事務局) 光熱水費に取られてしまっているというのが大きいですが、全国の皆さ
んの期待をたいへん強く感じた。

(藤本委員) 国立科学博物館だからうまくいったのかと思っているのか。

(事務局) 当館がやっても地域の支援はいただけても全国は難しいと思う。お

そらく国立科学博物館は施設管理でも相当なお金がかかっていると思う。

(藤本委員) 声をあげてもらったことが大事だと思うが、どうしても金額の話になってしまう。

(事務局) 博物館で保存していくこと、活動していくことが大事なことで多くの方が思っているものと感じた。また、多くの博物館の傾向として、オープン当初は入館者が多くても、その後じりじり減っていく例が多いようだが、当館は踏みとどまっている方だと思う。

(藤本委員) コロナで来なくなり、減りっぱなしのところもあるのか。

(事務局) 他の館長にお話を聞くと、減ったまま戻らないなどのお話を聞いている。また、大口のところは、インバウンドで今年回復しているかもしれない。

JAXAの交流棟はいかがか。

(藤本委員) びっくりするくらい人が来ている。今年人が多いのはロケットの打ち上げがあり、JAXA宇宙科学研究所がニュースになったことによるものだと思う。

(岩野委員) JAXAが色々なマスコミに取り上げられることにより博物館への集客も増えており、非常に高評価である。また、国立科学博物館に私の知り合いがいるのだが、クラウドファンディングの結果には大変喜んでいて。まさかあそこまで集まるとは正直なところ思っていなかったようだ。

(大貫委員) クラウドファンディングは国の場合は、独立行政法人という法律を作って国立という名前をつけながら国庫では運営しない。その中でクラウドファンディングが成立した。先程あった調査研究経費があまりにも低いというお話であったが、市の財政能力に従った中で、きちんとやってくださいということを期待するものだと思う。活動資金は自分たちで稼ぐという法体系のない公立博物館は、市議会広くは市民の理解を求めて市の財政負担能力の中で素晴らしい活動を行っていただくことが一番いいことかなと私は思う。

(岩野委員) 16ページの施設設備の維持管理の中で、スマートフォン活用による多言語対応の展示ガイドの導入について進捗を伺いたい。

(事務局) こちらの展示ガイドについては今年の3月に常設展示室に導入した。内容としては館内にWi-Fiを整備したのと常設展示室にQRコードを設置し、それを読み込むとその展示解説がダウンロードができる。なおかつそれをタッチすると日本語と英語での読み上げができるようになる。

(岩野委員) 外国語としては英語のみか。

(事務局) 今のところは英語のみである。ただ、中国語や韓国語にも対応しているので、拡張することはできる。

(岩野委員) 今後なるべく多言語を取り入れていくよう努力をお願いしたい。

< 2 について >

(浜田委員) 19ページのSとした評価の理由として、それは参加者数が目標値を超えたからなのか、あるいは満足度が高いからなのかが分からないと書かせてもらったのだが、どのような基準で評価されたのか。

(事務局) Sというのは高い評価のため、それに対する説明が必要であったと感じている。これに関しては、定性評価なので、広報にお金と時間をかければ評価は上がると思うが、そういった定量的な評価ではなく、ここでは質の部分について評価したいと考えている。特に講座・講演会に関しては全体的な数値が下がっているところもあったのだが、コロナ禍を機にスクラップアンドビルドをしている。参加者のニーズやコロナ以降どのような形でできるかを模索する中で、参加者のニーズを考えながら、新しい講座を運営してきた中で、実際の講座の参加者アンケートを見ると高い評価を頂いている。そういった所が評価のポイントであると考えている。また、JAXAと更にそれにつながるNASAやスペースガード協会など多様な連携を図ることによって、新たな来館者層を獲得している。それを自己評価している。

(浜田委員) せっかくSと評価されたので、その背景としてこれだけ取り組む努力をしたなどのことがここに書かれている方がいいかなと思った。

(岩野委員) 2ではJAXA関連ということで、宇宙教育についても取り上げて評価いただいているが、藤本委員から何か意見はあるか。

(藤本委員) いつも博物館からはこちらから持ち込むというより、ご提案をいただいている。特に企画をいただいてJAXAのメンバーと時間をかけて話し合いをし、協力して行った月の展示など面白い。また、プラネタリウムは魅力である。特色を生かそうとされているところがいい。

(岩野委員) 今後とも連携をさらに深めて活動していただければと思います。先に進む前に24ページの様々なメディアを用いた情報発信の取組について、今後のためにもできれば若い方たちの意見をお聞きしたいと思っており、山本委員からSNS関係でこうして欲しいなどの意見はあるか。

(山本委員) インスタグラムやTwitterを使っているのは、博物館に行く機会がない人達にも情報が入ってくるという点でいいと思う。博物館のプロ

グを見てみるとちょっとデザイン的に、あっいいかなとなってしまうような感じがする。ちょっとお堅い感じがある。真面目な人たちが考えて、上にとおして上から許可をもらって投稿した感じがある。もう少し気軽に沢山投稿すると見る人が増えるかなと思った。

(岩野委員) 正直私も博物館のホームページには若干の違和感を感じている。最初開いたときに情報等コンテンツが多すぎる。もう少しとっつきやすいアクセスの仕方があるといい。調べたい内容がどこにあるのかわかりにくい。もう少し親しみやすい博物館を感じられるような内容を摸索していただきたい。

(篠田委員) 今子ども達はタブレットをもって授業するのが当たり前になっていて、写真を載せるのであれば、子どもたちの作品の写真などを載せられればいいと思う。自分の作品が載れば皆見てくれると思う。

(岩野委員) 有識者の意見の中にも同じような意見が出ている。タブレットやパソコンが授業で取り入れられているため、日常的な学習の一環として博物館の動画を教材として使うことができるといいと思うというもので、こういうことは考えによっては可能であると思う。それにより博物館を身近に感じられるし、いろんな意味での活用が期待できる。できるところは少しでもご検討いただきたい。

< 3 について >

特になし

< 4 について >

(大貫委員) ここでの評価が低いと感じるが、先程お話の出た小中学校の全員にタブレットが配られているので、資料などの実物をわざわざ先生が取りにこなければならないなどを乗り越えることができると思う。出前授業などでも対応することによって、博物館が子どもたちにより身近なものにもなるし、博物館としてもその成果が生かせるのではないかと。今、先生方もカリキュラムがきつい中で、事前に打ち合わせをしたり、資料を取りに来たり、返しに来たりするという事は有り得ないことだと思う。そういった部分を工夫していくことによって改善していけるのではないかと考えた。

(岩野委員) 26 ページに関連するのだが、他の機関として、例えば尾崎弔堂記念館や吉野宿ふじやのPRが足りていないと感じるところがある。有識者の意見の中にもあるのだが、単に尾崎弔堂記念館とするのではなく、キャッチフレーズを付けるなどいいアイデアだなと思った。

(事務局) 尾崎弔堂記念館は、政治家としての基盤は三重県の伊勢市であるため、三重県にもあり、今までも資料の貸し借りなどのやりとりはあっ

たのだが、昨年度末に担当者と伊勢の記念館に行き、担当課の職員や先方の館長や学芸員と話をし、今年度から伊勢と相模原の連携事業を進めている。伊勢と相模原での連携展示はニュースバリューがあると思う。都内にも憲政記念館があるため、今後3館で連携したいと思っている。

(岩野委員)色々と考えていただいているようで安心した。

(浜田委員)私のいる桜美林大学でも海外の民俗資料の貸出しを小中学校におこなっているが、コロナ禍で物に触れるということが嫌われたために、貸出件数は激減したが、昨年位から少しずつ回復し、今年で十数件の貸し出しがあった。それに比べて博物館が6件というのは少ないと思った。また、私たちの大学で取り組んだ一つで、遠方の小学校に出前授業としてZoomでのオンライン授業を始めた。出向くのが難しいなどの場所であれば、オンライン化も一つの方策として面白いと思うので、提案する。

(岩野委員)36ページの貸出しキットに関連した評価というのは、極めて低い評価となっている。やはりそれだけなじみがなく浸透されていない。広報含めて検討していただきたい。関連して実物の貸出しとオンラインのハイブリッド的な考えも次年度に向けて検討していただきたい。

(藤本委員)我々も宇宙学校という出前授業をやっていたが、コロナ禍でなくなって回復していない。オンラインでもいいのかなと思う。この貸出しキットは普通の教材っぽい。もう少し学校で手に入らないものにしてはどうか。博物館でしか貸し出せないものに集中するなど考えたほうがいいと思う。

(五十里委員)県立相模原弥栄高校には美術科があり、予備校の人が本校に来て生徒の作品づくりをその場で講評をするというものを行っている。その教材が大きなコンテナに入れて送られてくる。都心の予備校に取りに行くのは難しいので、送っていただけることが毎年このような授業をやるきっかけとなっている。そのような取りに行かなくてもいいような仕組みがあるといいと思う。

(藤本委員)じゃあデジタルでいいよね、と言われてしまうと思うのでそれとどう戦うかが重要である。

(篠田委員)学校に備えられている民俗資料室は中身が変わることがあるのか。

(事務局)いくつかの学校に学校が独自で作った民俗資料コーナーがあるということは承知している。そういうものがある学校から中身を見てアドバイスをしてほしいという相談があってアドバイスをしたという経過もあるが、ほとんどの学校は記念でコーナーを作ってその後更新さ

れないことが多い。どこの学校にどんな民俗資料があるのかは把握していない。相談されれば対応はする。

(篠田委員) 私の学区にもあるのだが、いつも鍵がかかっていて見られない。いつも保護者の方たちは窓ガラスからしか見られない。そういうものをその学区の教材として借りることができたらと思うが、やはり借りる際にも先生の手間にもなると思うので、近くで貸出してくれればありがたい。

(事務局) 学校との連携が円滑に進む仕組みを作りつつある。お互いのリクエストなどに答えられるようなものにしたい。

(篠田委員) 南区から中央区に来るもの遠い。どの学校も同じ授業で進められると思うので、借りられる教材も近隣の学校から借りてくれるのではないか。

(岩野委員) 他に全般をとおして何か意見はあるか。

(藤本委員) 入館者数が戻っていることと企画展がうまくいっていることは明らかに連動していると思うが、企画展で刺激を与えることによって入館者数が増えているのか。

(事務局) 企画展やミニ展示やスマホアプリゲーム関連のものがあって、そういったものが話題となって来館意欲を刺激しているものと感じている。先日JAXA相模原キャンパス特別公開が開催され、今年度は1日目が実地開催で2日目はオンライン開催というものであった。コロナ禍前は2日間とも実地開催であり、この2日間で博物館に約7千人の方が来ていた。7千人は博物館の年間入館者数の5%である。今年度も1日で3千数百人の来館者数であった。入館者数については、数が増えた減ったという短期的なものではなく、長期的なトレンドで見ていきたいと思っており、長期的なトレンドという中では今は回復傾向にあると思う。今後も以前のレベルに戻るか、人数だけではないからという発想の転換もあると思う。

(岩野委員) 入館者数は増えて維持していると思うが、いかにリピーターを増やすかが重要である。また、これからは高齢者をいかにこちらに足を向けさせるかということも重要であり、高齢者の方にどのようにして博物館に来ていただくかということを前向きに取り組んでいただきたい。先日行われたプラネタリウムのオータムコンサートを私も鑑賞したが、プラネタリウムがステージになるのはいいと思う。子どもさんを連れた家族も多かったが、比較的高齢の方達が多かったという印象である。あのようなものも大変いいアイデアだと思う。一回来ると来やすくなるので、あのような新しい発想というものに今後とも期待

したいと考えている。

(岩野委員) 議題の1について、今日の会議で出された意見についても評価書の意見に可能な限り追記していただきたい。

(2) その他

(事務局) 館内に3基あるエレベーターのうち2基を12月から改修するための工事が始まる。改修に伴い博物館は12月から2月まで休館となるのでご承知おきいただきたい。なお、休館中においても開館時同様に祝日を除く月曜日、年末年始等を除き職員等は勤務しているため電話による問い合わせや情報発信事業につきましては継続して行う。

休館中の学芸員の仕事については、展示室が閉まっているだけで、仕事の量や質はそれほど変わらないが、展示・教育普及事業のほとんどがストップすることになる。それに代替するものとして、活動しているという情報を連載のような形でブログやSNSを通じて発信していく。また、大きなトピックスとしては、本年改正された博物館法の中でデジタルアーカイブを構築して公開するということが明記された。博物館としては今年度始めなければならないということで、予算化し、資料の写真撮影を始めている。プロのカメラマンにお願いし、休館期間中でなければできない展示室に展示してある資料などの撮影を行う。

以上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	藤田 博己	市立大野台小学校校長		欠席
2	五十里 雅子	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会副会長		出席
4	篠田 春美	元 市 P T A 連絡協議会副会長		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	元 日本大学生物資源科学部教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授		出席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長		出席
9	山本 幸奈	公募委員		出席
10	中里 真紀子	公募委員		出席